

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月12日（月）～平成30年11月18日（日）〔平成30年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。

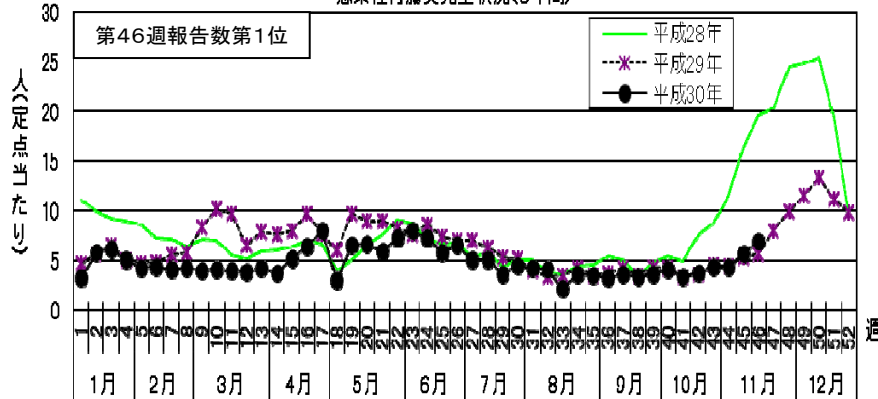
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.86人と前週（5.65人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.11人と前週（4.38人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

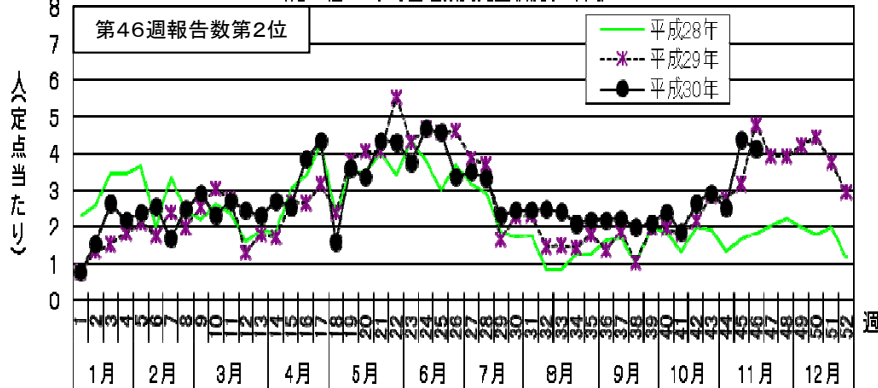
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.44人と前週（1.56人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## 地域的な流行が続いています！～百日咳～

百日咳は百日咳菌を原因とし、特有の発作性の咳を特徴とする急性気道感染症です。川崎市では平成30年6月以降、地域的な流行が続いており、現在は高津区と川崎区において発生が多くみられています。

国立感染症研究所による全国の百日咳報告（平成30年1月1日～9月30日）では、5歳から15歳未満までの小児の報告数が多く、30歳代から50歳代の成人においても患者が散見されています。川崎市においても同様の傾向がみられ、学校等での集団生活における感染や家庭内あるいは会社での感染も報告されています。百日咳の感染が疑われる場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

川崎市における百日咳区別発生状況－平成30年第1週～第46週－

